

島に良質のものがある。然しその産額は極めて少ない。魚類は礁湖内に多くの種類があるけれども漁獲高は少ない。食用に供するものは主としてムロアジ、イワシ、トウゴロイワシカマス、ボラ、イトトウダヒ、ハタ類、ヒメジ類である。これ等の外、海藻類は極めて少なく有用藻類は殆んど無い、荷バラオ島に限り鰐魚が棲息してゐるのは南洋群島に蛇類が殆んど居ないのと共に面白い事實である。

以上は主として海圖に現はれてゐる南洋群島珊瑚礁の地形に就いて其の性状を述べたのであるが火山島を除き一般的に平低で遠望が顯著でない珊瑚島附近の航海には地形的知識よりも周到な見張りが必要であることを附言する。(按察者S)

新著紹介

○山崎直方論文集

前後兩編二冊 菊版 前編五六一頁

昭和五年十二月 定價五圓五〇錢 後編六二九・三九頁

昭和六年五月 定價六圓五〇錢 東京古今書院發行

故山崎先生の論文報告類は内外の多數の雑誌や刊行物に載せられて中には一寸手にし難いものもある。先生の如き地學先覺者の論述は直接の門弟でないとしても地學愛好者が何を措いても讀まねばならぬものである。前後二編を通じ八部に編纂し、(一)火山十一篇、(二)地質地形十三篇(三)、水河三篇(四)地震、地塊運動十一篇、(五)考古學、人類學七篇(六)

新著紹介

人文地理七篇、(七)地誌三篇(八)地理教育四篇、計五十九篇の研究論文を選擇され美しく印刷されてある。其の題目を追うて見てゆくと日本地學界に影響を與へたものが頻々として出て來る。火山の部では妙高火山及び八ヶ嶺火山の震災調査會報告に出た雄篇があり、地質地形の部では英文の信濃紅崖流紋岩や獨逸文の瀬戸内海地形學的考察の力篇や、遠江海岸の平原や丹那盆地やの着眼の銳利なものがあり、地塊運動に

關しては房總半島と關東地震の地形學的考察があつて何れも最近十數年の日本地震地學界をリードしたもの、考古學では獨逸文の日本の塚穴があつて先生留學中のよき記念物、地誌の部には瀬戸内と共にペテルマンスミツタイルンゲンに掲げられた臺灣島の獨逸文地誌がある。兎もかくかゝる精讀し易き形に於て此等の名著に接することの出來るのは欣ばしい限りである。原著の附圖は瀬戸内への如く省かれたものもあるが火山の地質圖の如きはうまく縮小されて十二分に役立つものである。巻尾には著作目録、略年譜と共に辻村氏の山崎博士と日本の地理學の一篇があつて錦上に花を添えてゐる。地學研究家は須く雜文を手にするよりもかうした名著揃ひを通讀して地學の大先生を偲ぶべきである。(N)

○寶雲抄

東伏見邦英伯著 民友社發行 定價參圓五十錢

東伏見宮の御跡をつがせらるゝ邦英伯は學習院御在學中(大正十三年四月)奈良へ旅行をはじめさせられて年々御見學になつた四年間の記録をまとめてこの一本にせられた。菊版

三六六頁の美本であつて秋篠寺、不遇寺、三月堂、黄檗、淨瑠璃寺、恭仁京、靈山寺、法隆寺、中言寺、法輪寺、法起寺唐招提寺、奈良諸大寺及其佛像、建築等についての觀察録である。挿圖コロタイプ五十いづれも國寶の美しさをしめしたものが、行文流暢にして温雅、無駄な形容がなく、まことにすがすがしいしかも力の入つた文章であつて敬服に堪えない。予は本書を繙いた上で奈良を見學する人の多かるべきを信じ、またさうした後學の士の益々多からんことを祈らざるを得ないのである。(藤田)

○古社寺の研究

魚澄惣五郎著 京都星野書店發行

昭和六年六月五日 定價五圓

知友魚澄文學士の快著である、氏は嘗て京都府史蹟調査委員であり、大阪府及兵庫縣の史蹟調査委員をも兼ねて居られるのであるから、かうした研究には便宜を有せられるのも當然ではあるが、今君の學實な研究的態度と、明快な行文とは全篇五一六頁のいづれの篇にも現はれてゐる。本書は大正五年以來本年に至る十數年間の成績を集められたもので、王朝時代の寺院制度、攝津河内源氏の本貫、赤松氏の菩提寺、中世澁川河口の發達、中世の寺院領、八幡宮と足利氏、三井寺と足利氏、吉野金峰山と山伏、東大寺の開墾事業、中世に於ける奈良、室町時代の寺院、六波羅密寺、豊國神社被劫、氏神と祖神との關係、といふ十四篇が大綱であつて、主として中世の歴史地理に關する論文集とみることが出来る。近時郷土研

究といふことが流行してきて、多くの雑誌が輩出してゐるが其論ずる所は廣袤地形人口の稀薄、交通の狀態變遷等の表面的記述に止まつて、一步をすすめて過去の景觀を復原するに至らない。又地理學者も多いことではあるが、當面の地形、經濟事業等の説明に迫られて、人文現象の因て來るを明にするものが尠ない、魚澄君も兼て云つてゐられることであるが、近畿の歴史地理はまだ蒙昧である、過去の莊や、郷や、里の地名の文書に現はるゝものは甚だ多い、記録も可なりあるがそれが今日の村のいづこであるかがわからぬものばかりだ、せめてこの中世の土地の名が明にならなくては、日本の社會史も明にならぬといつてゐられる通り、筆者も山城や丹波や攝津や河内の中世の地理について考へさせられる時が多い、予は郷土の研究をする人々にさうした懐古の趣味を鼓吹したのである。故に本書の出現はこの種の歴史地理、もしくは郷土を研究する人々にとつて、誠に近來での好參考であらうことを信じ、敢てこれを江湖にすゝめる。特に近畿には多くの史談會や、郷土研究會がある、その方面の人々は恐らく予の推奨をまつまでもなく既に購讀されてゐることゝは考へるけれども、知友の好著を黙して過ぐるの非禮を恐れて、こゝに一言する次第である。(藤田)

○新潟縣史蹟名勝天然記念物調査報告第二輯

本編は主として新潟縣に存する自然林の説明が主であつて能生白山神社々叢、富川神社々叢、稻島の銀明竹、玄庵の繁

樺、烏屋野の逢竹、小山田の彼岸櫻、梅護寺の珠數樹櫻、小木の御所櫻、岩船の餓頭岩、笹川流、宮野八幡宮社叢、岩船郡栗島等の記録である、中にも餓頭岩と其化石及栗島の岩石地質は、いかにも珍らしく讀んだ。(藤川)

○明治初年北海紀聞

清野謙次編 岡書院發行
定價二圓八十錢

京大醫學部教授清野博士は其親戚安場保和家の土藏から得られた北海道や千島への明治十七年保和氏の巡回日記、明治九年千島三郡取調書、金子堅太郎子の建議書等を集められたもので、これによつて北海道開拓の初代の様子がよくわかる。北海道史の好資料である。

雜報

○鐵鑛の世界産額

鐵鑛の世界産額は一九二七年一億七千噸なりしに、一九二八年一億七千二百噸となれり、英國は一九二九年に二百萬噸を増産したるも、一九一三年に比して八二%六、一九一三年には世界の總産額中の九%なりしも一九二八年に六%に減じたり、獨逸はエルサスローレンを失ひ一九一三年に世界の産額の一六%をしめしに、一九二九年には三%八に激減し、ために鐵鑛の輸入は千三百八十萬噸に達した、今一九二八、九年の主要鐵産國を表示せん。

ドイツ 六、七五〇、〇〇〇噸 アメリカ 七、二六〇、〇〇〇噸

エルサスローレン	三、三六〇、〇〇〇	ニュージーランド	一、四一〇、〇〇〇
ルクセンブルク	七、五二〇、〇〇〇	キニバ	六、五三〇、〇〇〇
ベルギー	一、四〇〇、〇〇〇	チリ	一、〇〇〇、〇〇〇
佛蘭西	五、五五〇、〇〇〇	アルゼリヤ	△三、六五〇、〇〇〇
(エルサスローレンを含む)			
イギリス	二、四三〇、〇〇〇	チニニス	九七〇、〇〇〇
伊太利	八七〇、〇〇〇	英領印度	二、四六〇、〇〇〇
ノルウェー	七、四〇〇、〇〇〇	日本	△二七〇、〇〇〇
オーストリア	一、八六〇、〇〇〇	朝鮮	△四〇〇、〇〇〇
ポーランド	六五〇、〇〇〇	滿洲	△六五〇、〇〇〇
瑞典	二、四八〇、〇〇〇	濠洲	六七〇、〇〇〇
スペイン	六、五五〇、〇〇〇	總計	△二五、二〇〇、〇〇〇

△印は一九二八年度

第二表 主要國別年産額

獨逸	一九一三年 一、九二七、〇〇〇	一九二七年 六、四七五、〇〇〇	一九二八年 六、七五〇、〇〇〇	一九二九年 六、七五〇、〇〇〇
ベルギー	一、五〇〇、〇〇〇	七、四〇〇、〇〇〇	七、一七〇、〇〇〇	七、三二〇、〇〇〇
フランス	三、三六〇、〇〇〇	四、四三〇、〇〇〇	四、〇〇〇、〇〇〇	四、五五〇、〇〇〇
イギリス	二、四三〇、〇〇〇	二、四三〇、〇〇〇	二、四三〇、〇〇〇	二、四三〇、〇〇〇
アメリカ	七、二六〇、〇〇〇	七、二六〇、〇〇〇	七、二六〇、〇〇〇	七、二六〇、〇〇〇

○世界鐵鋼生産額

世界の鐵鋼界は大戦終熄と共に一時一齊に不振に陥りしが其後世界産額は増進するにも拘はらず